

私立大学研究ブランディング事業

平成30年度の進捗状況

学校法人番号	201004	学校法人名	佐久学園		
大学名	佐久大学				
事業名	健康長寿(佐久)を牽引する「足育(あしいく)」研究プロジェクト				
申請タイプ	タイプA	支援期間	3年	収容定員	490人
参画組織	看護学部・看護学研究科・地域連携推進センター・佐久大学信州短期大学部				
事業概要	健康長寿を足の健康から展開する研究プロジェクトを全学的に推進し、子ども・成人・高齢者を対象とする実態把握に基づき、足の健康教育プログラムを開発する。産・学・官及び医療機関との協働の下、本学が足の健康づくりの拠点となり、研究成果の情報発信、企業による足の健康関連製品・機器の開発への支援、基本的なフットケアができる専門職の人材育成、地域住民への知識の普及を図ることで、本学のブランドを広く浸透させる。				
①事業目的	<p>1. 本事業の背景と着眼 佐久地域は、農村医療発祥の地、そして健康長寿の高齢者が多い町として知られ、地元自治体の佐久市も「世界最高健康都市」構想を掲げている。本学も、地域の保健・医療・福祉に寄与する大学として「佐久」の名と共に社会的な認知が高まっている。自然豊かで健康意識の高い長野県佐久市ではあるが、健康長寿の維持・延伸には、歩行運動の低下などの課題があり、足に関しては、必ずしも適切でないシューズなどの着用が足の健全な成長を阻害しているという側面もある。</p> <p>2. 「足の健康」の現状と課題 「歩く」という行為は、人間の基本動作であり、健康面、精神面、社会面、健康な環境、医療コスト削減などの多様な局面で効果・効用をもたらすが、一方で、「歩く」ことを支える「足のケア」と「足に合った靴」に関しては、保健・医療・福祉従事者でも意識が低い。小学生の約60%、20歳代女性では調査対象者全員、高齢者の約96%に外反母趾等何らかの足の異常が認められる報告もある。</p> <p>3. 本事業の目的と特色 本事業の目的は、住民、行政、保健・福祉・医療関係者が一体となって進めている、佐久地域の「健康長寿のまちづくり」を発展させるうえでの重要課題の一つである足の健康問題に、大学が、教育・研究資源を動員して取り組み、その成果を情報発信し、関係者と連携、協働して、具体的な施策、実践、製品開発等に結び付けることで、地域貢献を高め、大学のブランディングを図ることである。</p> <p>4. 事業の内容 本事業の内容を、事業展開に沿って要約すると以下のようである。 ①「足の健康」に関する実証データ、改善課題の分析 ②研究の3つの実践指標の提示 上記の研究成果を基にした「a 足の健康教育プログラム」、「b 足の健康教育(足育)人材育成プログラム」、「c 足健康測定器・足健康シューズの改善モデル」の3つを開発・作成し情報発信する。 ③研究の応用的展開の3つの場面－連携・協働による本学のブランディング</p>				
②平成30年度の実施目標及び実施計画	<p>【目標】 (1) 地域住民への足や爪への関心を高め、足の健康を維持するために教育プログラムを検討する。 (2) 足の健康教育のための人材教育プログラムを開発する。 (3) 看護職及び看護学生への足のナースシューズの改善モデルの検討を開始する。</p> <p>【実施計画】 (1) 佐久大学発「足育健康教育プログラム」として、実施調査に基づく足や爪の形状観察、靴の選択や正しい靴の履き方、歩き方を含めた内容を精選する。整形外科靴マイスターやフットケアの専門家を交えた会議を開催して、教育プログラムを開発する。 (2) 短大教員、看護学部教員、理学療法士が中心となり、高齢者の足のケアを実施する保健医療介護従事者のための教育プログラム内容(高齢者の足の特徴、ケアの知識)を精査してバージョンアップを図る。 (3) 学生個人のフットプリントに基づくシューズの選択とその成果を分析し、履きやすいシューズの条件を明らかにする。医師(整形外科、皮膚科)、フットケア指導士、医療職、ケアワーカー、シューフィッターの担当者等の専門会議を通して、医療職用シューズの改善事項について検討する。</p>				

<p>③平成30年度の事業成果</p>	<p>(1) 佐久大学発「足育健康教育プログラム」について 一般人・高齢者の足の健康の意識を高める啓発教育のために地域住民を対象とした実体調査を実施した。「幼児・小学生・中高生」を対象とする子ども実態調査グループと「成人・高齢者」を対象とするグループに分かれて調査を実施した。佐久市主催の「ぞっこんさく市」で200名の「成人・高齢者」のデータを採取し、①足の健康に関する自記式アンケート調査、②看護師による足のトラブルの観察、③「足裏測定装置」による足裏の形状を実施した。また、足への関心をひきつけるフットグッズの開催、各種イベントでのフットプリン採取およびその結果相談等、年間で延べ約2,600人の参加を得られた。これらの機会を通して、佐久市内でのイベントを通して、足と靴の教育が必要となる児童や成人高齢者の足の実態把握ができた。A 小学校では、1年生から6年生までのフットプリントを採取して、個別の足裏アーチ形状の発達状態、学年別の比較の結果を得ており、長期間の縦断的調査計画へと発展させていく。 以上により、小児成人を問わず、自分の足や爪の現状を把握して、適切な靴選び方、正しい履き方を含めた「足育健康教育プログラム」(啓発プログラム)を実施するためのデータや教育のポイントが抽出されてきている。人材育成のために、本学教職員の研修への派遣し、教育活動におけるコアメンバー(7名)の育成が進んだ。</p> <p>(2) 高齢者の足のケアを実施する保健医療介護従事者のための教育プログラムについて 高齢者の足から始める健康づくりとして、虚弱な高齢者の起立を支援に向けた基礎情報の収集と起立支援のための立ち上がり動作の調査を計画した。今後、データ収集して、分析した結果に基づいて、ケア人材の教育プログラムを検討していく。</p> <p>(3) 学生個人のフットプリントに基づくシューズの選択とその成果を分析し、履きやすいシューズの条件を明らかにするについて 学生の靴と健康についての認識の実態を明らかにし、足のトラブルと靴の履き方、選び方に関連した要因を検討し、得られた知見をもとに学生を対象とした学内におけるナースシューズ選定と、足の健康教育を1年生短大生に実施した。シューズ開発のために、ナースへのインタビューまたナースとケアワーカーを対象とした調査を行った。シューズへの要望を基に、今後、ニーズが充足できて、足の健康と安全性を兼ね備えたシューズ開発に取り組む。また、得られた調査結果を基に、靴の履き方の問題解決が急務であることが明らかになったため、足と靴の認識の改善が必要である。看護師の学会を利用した啓発活動を予定している。</p>
<p>④平成30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ●平成30年度総括として、本プロジェクトの進捗状況は順調に進んでいると言える。特に本プロジェクトで本学教職員が取り組んでいる足育に関する知識と知見の蓄積と情報共有が進んでいる。 平成30年度の実施計画の3項目については、「足育」に関係する研究テーマごとに教員がグループに分かれて、地域住民を対象とした一般成人・高齢者の足の健康意識を高める啓発教育の企画のために、実態調査を実施し、地域住民を対象とした教育ニーズを明確化したことが評価である。地域の成人・高齢者のデータを収集し、「成人・高齢者の足の件に関する実態調査」として分析結果の検討し、今後は論文投稿する予定である。学生が自分の足にあった靴を着用することの意味、正しい靴の選び方と履き方、歩行姿勢や足の疲労感への影響について学ぶことができたことは、将来的に足の健康も含めたヘルスケア実践者の育成に繋がったと言える。また、人材育成のために、本学内での人材育成を進め、専門的知識を持った教職員が5名に増えたことは、3年目でのケア人材育成の基盤につながる結果である。</p> <p>(外部評価) 本事業は、佐久市の唯一の高等教育機関として地域医療の先進地・佐久に創設されたというこの立地条件の強みをいかして、「足からの健康(足育)」をコンセプトに地域の重要課題の一つである足の健康問題に、大学が、教育・研究資源を動員して取り組み、その成果を情報発信し、地域の関係者との連携、協働に繋げて、地域に根差した地域貢献の良い環境が育成されつつある。 大学が足の健康という身近ですべての人に関わる課題をモチーフにして、具体的な施策、実践、製品開発に取り組んでいることが、地域の行政、病院、産業界、地域社会に貢献しているとい評価されている。</p>
<p>⑤平成30年度の補助金の使用状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育成費用: 足育関係の研修会参加費用及び講習会開催費用等 ・啓発活動費用: 佐久地域の健康等イベント参加費用及び謝品(ボールペン)等 ・管理等費用: フットプリント関連開発機器費用及びソフト開発費用並びに機材等のメンテナンス整備費用等 ・広報関連: ブランディング事業「足育」リーフレット及び絵本作製費用等